



Q 中学生になった娘の感情の起伏が激しくて心配です。

A 体の変化の影響で心が不安定になっているのでしょうか。

青年期の入口をとくに思春期といいますが、思春期は大人と子供の狭間で、自立したい思いと依存したい思いとの間で心が揺れ動く時期です。それで不安定になったり、反抗的になったりしがちです。

●大らかに受け止めて

思春期は体の変化が大きく、それが心のあり方にも影響を与えます。今の子供は親世代より成長が早く、心の成長が追いつかずに「まだ大人になりたくない」という思いから、不安を募らせることが多いのです。一般に男子より女子のほうが、1年ぐらい早く体が成熟します。ある調査によると、男子は体の変化をわりと淡々と受け入れているのに対し、女子は「仕方なく、

の変化は人それぞれですが、女子には、体の変化を肯定的に受け止められるよう、子供を産み育てる性としての喜びや希望を伝えてあげたいものです。それにはお母さんが、身近なモデルとなるでしょう。子供の機嫌がネコの目のように変わりがちですが、こんなときこそ親御さんはどんと構えていきましょう。

Q 部活の友達にユニフォームを隠されるなど、意地悪されています。

A 顧問の先生や担任に相談して一緒に対応してもらいましょう。

友達に意地悪されても、「親に心配かけたくないから」と黙っている子供もいます。なかには、自分の「ふがいなさ」を親に知られたくなくて、言わない子供もいるのです。

まずは、「よく話してくれたね」と、受け止めてあげることです。親を信頼して話してくれたことなので、間違っても「おまえ

が意気地ないからだ」などと子供を責めるようなことは言っではいけません。「お母さん（お父さん）は、あなたの味方だからね」というスタンスで、寄り添いましょう。

その上で、顧問に相談し、部活動の様子をよく見て対応してもらいます。担任の先生にも伝えておくとういでしょう。

成長途上には問題が起こるものです。大切なことは、教師と親が問題を共有し、子供たちのために取り組むこと。問題を隠したり、一方的に責めたりしないことです。

●目を離さない

「いじめの認知件数」がずば抜けて多いのが中学1年、2年。学校環境の変化に加えて、子供たちの心と体のバランスが崩れ、ストレスが増すからでしょう。

この時期は、体の変化から「自分」に目が向くようになり、人と比較して劣等感や孤独感にさ

い込まれることも多くなります。ちよつとしたことに過剰反応して否定的になったり、ストレスを他人にぶつけてみたり、問題が噴出しやすくなります。

いわゆる「ネットいじめ」も多く、外から実態を見抜けません。「からかっただけ」「遊んでいるだけ」などと、本人たちに罪悪感がないのも特徴です。

中学生になると、親子のコミュニケーションが手薄になりがちです。親子だけの時間を持つたり、心配なことは早目に先生と連絡を取って芽のうちに対処しましょう。

●ワンポイント・アドバイス

中学生になると口で言うて、子供が動くわけではありませんね。忍の心で「待つ」ことで、親心も深まります。

です。

ですから子供のいないときは、勝手に部屋に入らない、掃除は自分でするなど、親子で申し合わせておいたらどうでしょうか。「親はあなたを自立した個人として認めるので、あなたもきちんとした生活をしなさい」と、子供の自覚を促すのです。

中学生にもなれば、自分を見つめる静かな時間や空間は必要でしょう。そうであれば、部屋にパソコンやテレビは置かない工夫があってもいいですね。どうしても鍵が必要なら、引き出しに鍵を付けてあげたらどうでしょうか。



Q 中学生の息子が部屋に鍵をつけてと言います。

A 家族でマナーを守れば鍵はいらないのでは？

「勝手に部屋に入られるから」「掃除や片付けなど、干渉されるから」とか、子供の言い分はいろいろあるでしょう。

子供に部屋を与えたのは、自

立して振る舞えるようになったから、必要以上に干渉しないで任せる、ということでしょう。部屋の所有者である親が、子供に自由に使うことを認めたわけ